

からまつ

北原白秋

(一) から松の林をすぎてから松をしみじみと見き  
から松はさびしかりけり

たびゆくはさびしかりけり

(二) からまつの林を出でてから松の林に入りぬ

からまつの林に入りて

また細く道はつづけり

(三) から松の林の雨はさびしけどいよよしづけし

かんこ鳥鳴けるのみなる

からまつの濡るのみなる

【作者】北原白秋（一八八五～一九四二年（明治十八年～昭和十七年）・日本の詩人、童謡作家、

歌人。本名は北原隆吉。詩、童謡、短歌以外にも、新民謡（松島音頭・「ちやつきり節」等）の分野にも傑作を残している。生涯に数多くの詩歌を残し、今なお歌い継がれる童謡を数多く発表するなど、活躍した時代は「白露時代」と呼ばれる近代の日本を代表する詩人である。

弟はそれぞれ出版人となり、北原鉄雄は写真・文学系出版社アルスを、北原義雄は美術系のアトリエ社を創業し、従弟の北原正雄も写真系の玄光社を創業した。